

付録 4 定期点検記録様式の種類と記入方法

(1) 定期点検記録様式の種類

定期点検の結果を記録するための様式（全 15 種類）のリストを付表 4.1 に示す。

付表 4.1 定期点検記録様式リスト

略名	様式の種類	様式番号	記載内容	解説番号
浜松市 様式	トンネル 台帳	様式 A-1	トンネル諸元、非常用施設諸元	①
		様式 A-2	トンネル情報一覧表	②
		様式 A-3	トンネル記録（位置図、断面図、施工実績他）	③
	定期点検 記録様式	様式 B	トンネル変状・異常箇所写真位置図	④
		様式 C-1-1	全スパン定期点検結果総括表（トンネル本体工）	⑤
		様式 C-1-2	定期点検結果総括表 （トンネル内附属物等の取付状態）	⑥
		様式 C-2	状態の把握の内容	⑦
		様式 D-1-1	変状写真台帳	⑧
		様式 D-1-2	異常写真台帳（トンネル内附属物等の取付状態）	⑨
		様式 D-2-1	トンネル全体変状展開図	⑩
		様式 D-2-1'	トンネル全体変状展開図（機器の活用時）	⑪
		様式 D-3	覆工スパン別変状詳細展開図	⑫
		様式 E	近接目視による状態の把握が不可能な箇所	⑬
		様式 F	覆工スパン毎の変状数・変状規模の集計	⑭
		様式 G	健全性の診断の区分に関する所見	⑮
国様式	定期点検 記録様式	様式 1	トンネル変状・異常箇所写真位置図	⑯
		様式 2	変形写真台帳	⑰
		様式 3	健全性の診断の区分に関する所見	⑱

- ①～⑮は、「道路トンネル定期点検要領（令和 6 年 9 月、国土交通省道路局国道・技術課）」の様式 A-1～様式 G を準用したものである。
- ⑯、⑰、⑱は、「道路トンネル定期点検要領（技術的助言の解説・運用標準）（令和 6 年 3 月、国土交通省道路局）」の様式 1、様式 2、様式 3 を準用したものであり、定期点検結果の最小限の情報を記録する様式である。
- ①～③は、トンネルの基本的な諸元等を記録する台帳である。
- ④～⑱は、定期点検結果を記録する様式である。
- ④と⑯、⑧と⑰、⑮と⑱は、同じ内容であるが、浜松市様式と国様式で様式番号が異なる。
- ⑩は、トンネル全体の変状を俯瞰的に把握できる図面（変状展開図）である。変状単位で覆工スパン番号に紐付けて変状種類や寸法を残すことで、次回の定期点検や以後の詳細調査等で有用な情報を記録することができる。
- ⑪は、状態把握において近接目視によらない方法（機器）を活用したに用いる様式である。
- ⑤～⑦、⑨、⑫～⑮は、定期点検において、トンネルの変状・異常が道路利用者に及ぼす影響を詳細に把握し、適切な監視や対策といった長寿命化計画の策定において有用な情報を記録する様式である。

③ 【様式 A-3】トンネル記録（位置図、断面図、施工実績他）

トンネルの基本的な諸元等を記録するトンネル台帳の 1 つである。位置図、現況写真（坑口の写真）、標準断面図、支保パターン図、地質縦断面図を記録する。また、不良地山が原因で、建設時に特殊工法等を用いた場合は、その箇所、検討内容、工法等を記述する。特に、地質縦断面図は、定期点検だけでなく、詳細調査や措置の検討などの維持管理においても貴重な情報となるため、定期点検の前に行う「点検対象トンネルに関する資料収集・整理」において、できる限り把握しておく。

様式 A-3 トンネル記録（位置図、断面図、施工実績他）

■ トンネル台帳 トンネル記録（位置図、断面図、施工実績他）【様式 A-3】	フリガナ 名 称	
	路線名 管理番号	
	作成者	
	作成年月日	
位置図・現況写真・標準断面図・地質縦断面図・施工実績		

⑩ 【様式 D-2-1】 トンネル全体変状展開図

定期点検で作成する様式の 1 つである。トンネル全体の変状を俯瞰的に把握できる図面（変状展開図）である。変状の種類、位置、形状、寸法等を変状毎に図面に記録することで、次回の定期点検や以後の詳細調査等で有用な情報となる。

様式 D-2-1 トンネル全体変状展開図

フリガナ 名称		路線名 管理者名		定期点検実施者	定期点検年月日
トンネル全体変状展開図					
トンネル変状展開図					

注1: 本展開図は、見下げた状態で記載すること。
 注2: 覆工スパン番号は横断目地毎(矢板工法の場合は上半アーチの横断目地毎)に設定すること。
 注3: 横断目地の変状は前の覆工スパン番号で計上すること。
 注4: 1枚に収まらない場合は、複数枚に分けて作成すること。

- ⑪ 【様式D-2-1'】トンネル全体変状展開図（機器の活用時）
 定期点検で作成する様式の1つである。

様式D-2-1'

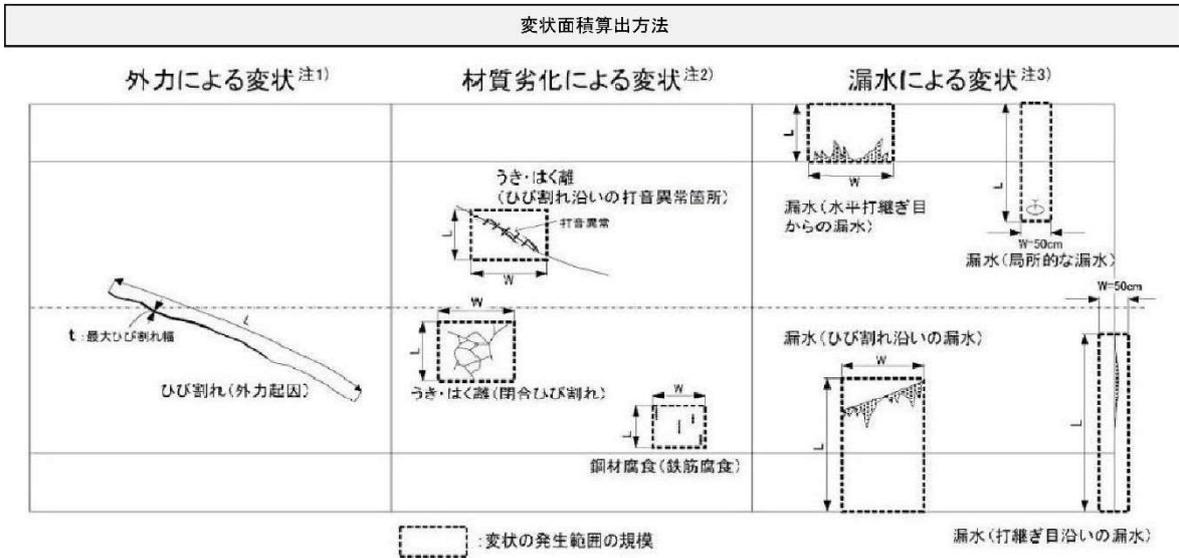
トンネル全体変状展開図（機器の活用時）

■定期点検記録様式 トンネル全体変状展開図（機器の活用時）【様式D-2-1'】

フリガナ 名称		路線名	管理者名	定期点検実施者		定期点検年月日
トンネル全体変状展開図						
トンネル変状展開図						

注1:本展開図は、早下げた状態で記載すること。
 注2:覆工スパン番号は横断目地毎(矢板工法の場合は上半アーチの横断目地毎)に設定すること。
 注3:横断目地の変状は前の覆工スパン番号で計上すること。
 注4:1枚に収まらない場合は、複数枚に分けて作成すること。

様式 D-3 における、変状の発生範囲の規模の計上方法の考え方



注1) 外力による変状: ひび割れや圧さの場合は変状の寸法を記録する。

例) ひび割れ: 長さ(L) × 最大ひび割れ幅(t)を記録する。

変形、移動、沈下: 数値的な記載が可能な場合のみ記載する。

注2) 材質劣化による: 打音異常

例) うき、はく離(閉合ひび割れ): 変状範囲を包括する寸法(L × W)

うき、はく離(ひび割れ沿い): 打音異常箇所を包括する寸法(L × W)

鋼材腐食(鉄筋腐食): 一括した対策が妥当と考えられる範囲を包括する寸法(L × W)

注3) 漏水による変状: 漏水発生範囲を包括し、垂れ下りの可能性がある側壁下端まで含めた寸法を、L × Wで記録する。打継ぎ目地沿いの漏水については目地を跨いだ50cm幅を横幅とする。

⑯ 【様式 1】 トンネル変状・異常箇所写真位置図

定期点検で作成する様式の 1 つである。【様式 B】と同じ様式であり、当該様式と同様に記録する。

様式 1 トンネル変状・異常箇所写真位置図

定期点検記録様式 トンネル変状・異常箇所写真位置図										施設ID	
フリガナ		路線名		管理者名		定期点検実施者		定期点検年月日		緯度	
名称		トンネル工法		トンネル延長		自専道 or 一般道		起点		緯度	
所在地		建設年度		幅員		L=		終点		緯度	
トンネル毎の健全性の診断の区分		変状・異常箇所数合計		材質劣化		III		IV		○ (応急措置後)	
		トンネル本体内		漏水		III		IV		×	
		外力		II		III		IV			
トンネル変状・異常箇所写真位置図											

写真番号の記載例
 本体内の変状：写真-【竣工スパン番号】-【変状番号】
 附属物等の異常：写真-【竣工スパン番号】-【異常番号】

※1 トンネル本体内の変状数は、材質劣化、漏水に起因するものは変状単位で、外力に起因するものはスパン単位で計上すること。
 ※2 トンネル本体内の変状に対しては、健全性の判定区分Ⅱ～Ⅳについて表記すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所についても記載すること。
 ※3 附属物等の取付状態の○欄については、応急措置前に判定区分×とした箇所のうち応急措置により○判定とした箇所の数を記入すること。
 ※4 附属物等の異常番号は、本体内と番号が重複しないよう101番以降とする等の配慮を行い、分かりやすく記録すること。

注1：本位調査は、目下げと状態で記録すること。
 注2：竣工スパン番号は掘削目録(体取工法の場合は上半アーチの掘削目録)に設定すること。
 注3：写真番号に付する変状番号は、各竣工スパンの変状に対して新たに確認された場合は前次追加していくこと。
 注4：掘削目録の変状は箇の竣工スパン番号で計上すること。
 注5：1枚に取まらない場合は、複数枚に分けて作成すること。

⑰ 【様式 2】変状写真台帳

定期点検で作成する様式の 1 つである。【様式 D-1-1】と同じ様式であり、当該様式と同様に記録する。

様式 2 変状写真台帳

フリガナ名		略 名		定期点検実施者		定期点検年月日	
フリガナ名		略 名		定期点検実施者		定期点検年月日	
工番号	変状番号	工番号	変状番号	工番号	変状番号	工番号	変状番号
対象箇所	部位区分	対象箇所	部位区分	対象箇所	部位区分	対象箇所	部位区分
変状種類		変状種類		変状種類		変状種類	
変状区分		変状区分		変状区分		変状区分	
応急措置前		応急措置前		応急措置前		応急措置前	
応急措置後		応急措置後		応急措置後		応急措置後	
変状の発生範囲及び規模		変状の発生範囲及び規模		変状の発生範囲及び規模		変状の発生範囲及び規模	
対策履歴		実施状況(実施日)		対策履歴		実施状況(実施日)	
メモ		メモ		メモ		メモ	
工番号	変状番号	工番号	変状番号	工番号	変状番号	工番号	変状番号
対象箇所	部位区分	対象箇所	部位区分	対象箇所	部位区分	対象箇所	部位区分
変状種類		変状種類		変状種類		変状種類	
変状区分		変状区分		変状区分		変状区分	
応急措置前		応急措置前		応急措置前		応急措置前	
応急措置後		応急措置後		応急措置後		応急措置後	
変状の発生範囲及び規模		変状の発生範囲及び規模		変状の発生範囲及び規模		変状の発生範囲及び規模	
対策履歴		実施状況(実施日)		対策履歴		実施状況(実施日)	
メモ		メモ		メモ		メモ	

※ 健全性(応急措置後)の判定区分Ⅰ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。
 ※ たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。
 ※ 附属物の取付状態に関する異常写真は別途、任意の書式で添付すること。

※ 変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の底さや面積をいう。
 ※ 応急措置を実施しないで判定した変状の判定区分は、判定区分の応急措置後の欄に記入すること。

様式 2

⑱ 【様式 3】 健全性の診断の区分に関する所見

定期点検で作成する様式の 1 つである。【様式 G】と同じ様式であり、当該様式と同様に記録する。

様式 3 健全性の診断の区分に関する所見

フリガナ 名 称		路線名 管理名称		定期点検実施箇所		施設ID 定期点検年月日	
道路トンネルの健全性の診断の区分の所見							

浜松市道路トンネル定期点検要領 付録 改定等の履歴

1. 令和元年7月 浜松市道路トンネル定期点検要領（改定版）付録 策定
 2. 令和7年3月 浜松市道路トンネル定期点検要領（改定版）改訂
-
-

